

小松島港湾・空港整備事務所 平成31年度事業概要

四国地方整備局 小松島港湾・空港整備事務所では、平成31年度の主要な事業として、①港湾整備事業、②海洋環境整備事業の二つの事業に取り組んでいきます。

◆ 港湾整備事業 ◆

沖洲(外)地区 複合一貫輸送ターミナル整備事業(徳島港区)

徳島小松島港沖洲(外)地区には四国で唯一の徳島と東京、北九州を結ぶフェリー航路があり、船舶の大型化、フェリー貨物の輸送の効率化、災害時の緊急物資輸送路の確保を目的として、水深8.5mの耐震強化岸壁を中心とした複合一貫輸送ターミナル整備事業を実施しています。平成27年3月に岸壁を供用させ、平成28年1月から同年9月にかけてフェリーの大型化が完了し、現在は4隻運航しています。

近年、長距離トラックドライバー不足が深刻化する中、フェリーによる輸送が期待され、輸送実績は増加(輸送台数は30年/29年比1.2倍)しています。

現在は港内の静穏度確保のために、防波堤の整備(150m延伸)を進めており、平成31年度は、上部工等の施工を行い、平成31年度中の事業完成を目指しています。

さらに、背後では四国横断自動車道も整備されており、今後益々、物流、人流拠点としての機能が強化されることとなります。



金磯地区・本港地区 老朽化対策 (小松島港区)

古くから天然の良港として栄えた小松島港区では、昭和30～40年代に整備されてきた主要港湾施設の老朽化による利用制限とその対策が課題となっています。

金磯及び本港地区の岸壁では、主に原木や化学肥料等が取り扱われています。

金磯地区の水深11mの岸壁は栈橋構造であり、床板ブロック(約20m×約20m)が全部で20ブロックあります。平成28年度から現地工事に着手し、平成30年度までに6ブロックの施工を終えており、平成31年度は引き続き海側2ブロックの施工を予定しています。

本港地区の水深9mの岸壁は老朽化が進行しており、平成30年度に、岸壁全体としての健全度を把握するため、現地調査を行いました。平成31年度は、早期の現地着手に向け、設計等を実施する予定です。

徳島小松島港における今後の港湾施設の老朽化対策については、施設の老朽化状況や利用状況を踏まえ効率的、戦略的に検討を行い、利用者の安全・安心を確保していきます。

